



朗読劇を披露する静岡文化芸術大の学生
＝浜松市中区の同校（浜松総局・二神亭）

「卒塔婆小町」朗読劇を熱演

音楽や映像交え引き込む

静岡文化芸術大(浜松市中区)の学生有志が企画する2部制の特別公開講座「新能卒塔婆小町(そとぼこまち)」の第1部が3日、同大で開かれた。演劇サークルの学生6人が三島由紀夫の近代能楽集「卒塔婆小町」の朗読劇を披露した。

静岡文化芸術大の新能講座

近代能楽集は能の物語を近代劇に作り替えた作品で、卒塔婆小町はかつて絶世の美女だった老婦人の小野小町と、詩人の男の掛け合いを中心に美しさや愛を表した内容。小町を演じた学生はゆつたりとした語り口で世界観を演出し、音楽や映像を交えて来場者を物語の世界に引き込んだ。

6日に開かれる第2部では、かがり火を飾った舞台を同大敷地内に設け、プロの能楽師が能の演目「卒塔婆小町」を披露する。能楽師による公演をより楽しめるよう学生は第1部で物語のあらすじや見どころを紹介した。

同大の新能の公開講座は2001年に始まり、今年で終了する。

(浜松総局・柿田史雄)